

建築文化賞

環境に配慮した建築物

建築主：旭興産株式会社

設計：有限会社ヤクシジ建築デザイン事務所

施工：清水建設株式会社千葉支店

所在地：袖ヶ浦市代宿穴田97-22他

真新しいまちとともに甦る失われた風景

雑木林のまち



豊かに醸成していく雑木林(緑)と共生する環境を生活の中で育てていくプログラム(緑の丘東側から)

(撮影/中塚 雅晴)

30年以上前に造成済みの土地で、取得した企業が、社員らの居となる住宅を建設するにあたり、原地形に立ち返って雑木林の再生の一步を踏み出した。1.3haほどの土地に2-3階建ての集合住宅3棟、計30戸である。

アクアラインの千葉県側である袖ヶ浦インターから千葉方面へ約5kmのところ、海岸線は埋め立てられ、ガス・石油化学工場が立地している。この建物群は、内房線と幹線道路を挟んで山側に位置する。もともとの台地と谷津が、あちこちで造成され、戸建て団地や中層の社員寮がパッチワークされている一帯である。高度成長期、そしてアクアライン開通がきっかけとなって、勢いを得た開発行為は、これまで自然地形を著しく改変してきた。この敷地内で自然生態系の再生の成果が目に見えるのはまだ先だが、ただ昔に還るのではなく、起伏のある土地を伝う水の動きがデザインされた吐水口などで演出され、都会的なセンスで台地と谷津のストーリーを再び紡ぎ出している点が示唆的だ。

郊外の住宅供給が急務だった時代、原環境に無頓着な開発が千葉県内で多数行われた。今日ではこれらの場所ですぐに、急速な高齢化と人口減少への適応を迫られている。見方をかえれば空間的にも時間的にもゆとりの増した郊外ライフが広がってきた。原風景を取り戻す方向で郊外を再編することが考えられるが、本作品はそのヒントを与えてくれる。素材やディテールにおいても、手仕事の産物と工業製品を巧みに組み合わせることで、一見ノスタルジックな帰郷のようでありながら、新しく創造されたものにはっとさせられる建築作品となっている。(岡部 明子)



手入れをしながら永く楽しめる素材を使ったインテリア空間



都市的に快適に暮らす環境と雑木林との融合を図った、谷津のシステムを取り入れた全体計画

(撮影/中塚 雅晴)